

第 26 回 紫波町まち・ひと・しごと創生推進協議会 要旨

○日 時：令和 8 年 6 月 26 日（金）9：30～11：30

○場 所：紫波町役場 2 階 会議室 201

○出席者

委 員：岩手県立紫波総合高等学校 副校長 秋田 美紀男、岩手中央農業協同組合 営農販売部長 阿部 正明、紫波町 自治体 C I O 補佐官 奥山 智佳等、N P O 法人紫波 i n g 理事 菊地 圭二（委員長）、株式会社北日本銀行 支店長 佐々木 慶亮、連合岩手盛岡中央地域協議会 事務局次長 須川 禎尚、株式会社トミオカ 代表取締役 富岡 靖博（副委員長）、公立大学法人岩手県立大学 総合政策学部 教授 新田 義修、社会福祉法人紫波町社会福祉協議会 会長／N P O 法人紫波さぷり 理事長 細川 恵子、紫波町商工会青年部 部長 八重嶋 大樹、盛岡広域振興局 経営企画部 企画推進課特命課長 横澤 嘉宗

※敬称略

紫波町：町長 鎌田 千市、副町長 高橋 堅、生活部長 長谷川 崇、建設部長 谷地 和也、産業部長 浦田 文伸、教育部長 葛 博之、農政課長 細川 修一、地域づくり課長 森川 高博、学校教育課長 上田 淳悟、生涯学習課長 小川 篤、こども課長 須川 範一

事務局：企画総務部長 山上 里香、企画課総合政策係 係長 金子 裕之、企画課総合政策係 主任 風間 亜由美

計 25 人

全体の進行を山上企画総務部長、議事内容の説明は風間主任が行った。

なお、開会に先立ち、町長から委員へ委嘱状の交付が行われた。

1 開会（企画総務部長）

2 町長挨拶

本日は、ご多用の中、紫波町まち・ひと・しごと創生推進協議会にご出席いただき、また、委員をお引き受けいただきまして大変ありがとうございます。限られた財政のなかで暮らし心地の良いまちづくりを展開しており、若者と女性に支持される地方創生・D X に注力しております。政権交代に伴う新たな地域クラスター（産業群）成長戦略を注視しつつ、これまでの取り組みを踏襲して次の展開へ励みたいと考えております。委員に皆さんからの忌憚のない意見をよろしくお願いします。

3 委員紹介・委員長及び副委員長選任

4 委員長挨拶

終了予定の 11 時を目指しながら、皆さんで活発なご意見をよろしくお願いいたします。

5 議事

（1）新しい地方経済・生活環境創生交付金事業の効果検証について（資料No.1）

【質疑】

紫波町温泉保養公園を核としたあづまねエリアブランディング推進事業

富岡副委員長：エリアブランディングの検討後、今後どのようにこの計画を展開していくの

でしょうか。また、東根山の登山客が毎年増えているなかで、途中のトイレ設置問題についても検討状況やスケジュールがあればご教示いただきたいです。

産業部長：本交付金を活用して基本構想案を作成し、現在パブリックコメント（6月22日～）を実施しております。具体的な整備期間や金額は構想決定後に計画に織り込む予定でございます。トイレについては検討に入っているが、即時整備するかはこれからの検討事項となります。今回の構想はファミリー層の取り込みを主旨としております。

菊地委員長：K P I の従業員数が「実績値増加分のみ」の記載となっており累計とズレがあるように見えます。雇用創出は大変なことであり、経営に響く部分でもあるので目標の置き方が気になりました。ただ、売上や交流人口は増えておりあづまねエリアとしては非常に良かったと感じます。

八重嶋委員：若い世代の男性を中心に朝風呂やサウナへの需要は一定数あると感じるが、朝風呂の展開などは難しいでしょうか。

産業部長：朝風呂は人件費等のコスト面（省力化）も見据えつつ今後検討していきたいと考えております。今回のK P I は地元雇用増を目標に掲げていたが、次回は経営面を加味した目標値を検討していきたいと思います。なお、ここ1～2年は入湯客が減っているため皆さんの利用に協力をお願いします。

高橋副町長：ラ・フランス温泉館は前年から年間約5,000万円の赤字が出ており全額補填している状況でございます。町所有の公の施設としての経営側・町側のバランスや、実際の構想を現実化するにあたってのハードルの高さを踏まえ、今後現実的な計画へ落とし込む段階で内容が変わる可能性がある点を含みおきたい所存でございます。

地域資源を生かした農村価値向上と人材育成のあるまちづくり事業（ノウルプロジェクト）

秋田委員：農業関係の学科を持つ高校にいた経験から、設備があっても、若者が農業に興味を持ち「労働して汗を流す達成感」を得られるような人づくり・アピールが最も大事だと感じます。

地域づくり課長：若者へのアプローチは重要視しております。ノウルプロジェクト（旧長岡小跡地利活用）を通じて農業にコミットする人材を育てつつ、一方でハードルを低くするため、校庭の「ノウルガーデン」で植物を植えて販売するなどの多様な選択肢を作りたいと考えております。校舎にも民間企業等の入居を予定しており、高校生をはじめ若い方が関わるきっかけにしていきたいと考えております。

八重嶋委員：K P I にある「地元事業者の関連事業者数（実績4名）」とは具体的にどういった繋がりか。

地域づくり課長：施設内のショップやレストランに地元の若手農家（わとな自然農園、ねね八農園、農園砥ノ上など）が野菜を納入する機会が増えたことによる実績となっております。

須川委員：仕事柄よく近くを通るが、テレビや新聞で話題になっている反面、場所が分かりにくいとの指摘を同僚から受けました。運転席から「長岡小学校」の看板は見えても「ノウルガーデン」の看板が見当たらないため、ラ・フランス温泉のような案内標識を設置してはどうでしょうか。

地域づくり課長：標識案内は重要であるため検討させていただきます。現在は国道396号入口に小さいものがあるほか、Googleマップでの検索ルート案内には対応しております。今後、国道456号の工事に合わせて設置を検討しつ

つ、目に見える看板について地域の方とも相談していきたいと考えます。

Re：公民連携プロジェクト

阿 部 委 員：オガールプラザができてから県内外からの視察が多く、町のアピールになっています。より良い方向へ向かうために、農協としてもお土産品の提供などで協力できる機会があれば相談に乗らせていただきたいと思います。

地域づくり課長：多くの方にお越しいただいているが、お土産品の開発はまだまだ余地があるため、関係者と検討していきたいと考えます。

菊 地 委 員 長：12月にはリニューアルも控えているため、中身もさらにパワーアップしていけるよう期待しております。

バレーボールを活用した暮らし心地向上事業

富岡副委員長：今回、事業開催地が「奥州市」となっているが、紫波町の地方創生事業として奥州市でバレーボールの試合を実施した理由を改めてご教示をお願いします。

金 子 係 長：第1期（3か年）は町内実施をベースに本交付金の決定を得ていたが、第2期となる本事業では、エリア全体・岩手県内全域を活性化させる発展的事業としての展開を求められております。紫波町内の体育館は規模が小さく、代表レベルの選手を招くにあたり、観客収容数や冷房設備等の要件を満たせる施設を探した結果、昨年度は条件の整った奥州市のZアリーナ（市総合体育館）で開催した経緯でございます。合宿の拠点はあくまで紫波町であり、今後も町側のメリットを出しつつ展開してまいります。

菊 地 委 員 長：従来の「町の事業は町内だけで行う」という枠を飛び出し、テレビCMでも「紫波町プレゼンツ、場所は奥州市」という形をとったのは非常に斬新で今の時代に合っていたと考えます。紫波町の役割を「合宿地」や特産品、ラ・フランス温泉館のPRの場として活かし、他地域と連携する新しい官民連携のパターンだと感じます。

旧紫波郡役所活用交流施設整備事業

横 澤 委 員：KPIにおいて、本施設の整備によって「地域の人口（世帯数）が増える」という目標が掲げられているが、どのような流れ・ゴールを目指して設定されたものか。

地域づくり課長：位置としてはオガールと日詰商店街の中間にあり、これまで弱かったこの2つのエリアを繋ぐ役割を期待しております。古い建物をリノベーションし、現代の技術と掛け合わせて紫波町らしい新しい価値を生み出すことで、「ぜひ紫波町に暮らしたい」という新たな転入者を増やしていくことを目指し設定しております。

菊 地 委 員 長：世帯数増の目標は、自分たちの努力が直接反映されやすい、もう少し努力が数値化できるKPIに設定し直した方が、事業検証として良いのではないかと感じます。

介護認定審査会DX化事業

菊 地 委 員 長：システム導入（DX化）によって介護認定の日数が大幅に短縮（目標マイナス2.1日に対し実績マイナス4.4日）されたとのことだが、システム化そのものによる効果なのか、それとも業務プロセスの削減によるものなのか。

生活部長：一番の効果は「紙の書類を作る事務作業」が削減された点にあります。従来は訪問調査や主治医の意見書をもとに審査員へ分厚い紙書類を作成・配布していたが、タブレット上でのダウンロードに切り替えたことで、事務局側の印刷・作成手間を大きく省くことができました。

菊地委員長：DXはシステムを入れること自体より、入れたシステムをどう運用し職員の業務の流れを変えるかが本質であるため、非常に良い成果であります。一度入れて終わりではなくPDCAサイクルを回して今後も事務改善を進めてほしいと思います。

生活部長：まだ道半ばであり、今後の目標達成はさらに困難が予想されるが、日数短縮に向けて着実に進めいきます。

八重嶋委員：導入前の「紙」から導入後の「電子化」へスムーズに移行し、システムを実際に使いこなせる職員（人材）を増やすための育成・手立てはどのように行ったのでしょうか。

企画総務部長：奥山CIO補佐官の力をお借りし、町のDX推進計画に基づき進めております。すぐに全職員が対応できるわけではないため、まずは外部人材のサポートを受け、各課から1名ずつDXメンバーを集めて毎月研修等を行い、そこから各課の職員へ業務改善のノウハウを波及させていく計画で進めております。

郵便請求キャッシュレスサービス導入事業

細川委員：時代に合わせた丁寧な推進をお願いしたいが、内容が少し分かりづらく感じます。これは遠方から為替等で請求していた人に対し「キャッシュレスでもできますよ」と周知していく事業という理解でよろしいでしょうか。

生活部長：名称は「郵便請求オンライン化導入事業」とする方が分かりやすいかもしれませんが。窓口ではなく郵便で戸籍等の証明書を請求される際、これまでは郵便為替を同封してもらい、職員が郵便局へ換金に行く手間がありました。これをWeb上のサイトでクレジットカード決済できるようにした事業でございます。また、不備のやり取りも電話ではなくWeb上のダイレクトメッセージで完結できる利便性がございます。令和7年度は1月導入だったため実績は2件にとどまったが、今年度から積極的に周知を進めてまいります。

紫波町断熱改修新規事業化事業（実施令和6年度評価）

新田委員：担当課コメントに「売上・人数ともに実績なし（未達）」とあるが、これはニーズ自体が満たされて終わったのか、それともまだ周知不足なのでしょう。

産業部長：世間一般に「断熱改修リフォーム」という言葉や概念がまだ浸透していないのが要因と捉えております。エアコンに頼るだけでなく、高気密化することで費用を抑え地球温暖化対策になるというPRが不足しておりました。ただ、本事業の目的である「内窓につける木製サッシ」等の開発は完了しており、今後は登録事業者（民間）がこれらを活用して提案していけるよう、町としても力添えしていきたいと考えております。

新田委員：以前住んでいた地域での経験からも、断熱材の有無による室内の快適性の違いは非常に大きいと思います。実感がない人へ向けた小さなきっかけ作りのPRが今後必要だと感じます。

紫波町スポーツ交流拠点整備事業（実施令和6年度評価）

八重嶋委員：「ワイズマン」ができたことでトレーニング環境が非常に快適になり、色々な年代の方が多く利用されていて有り難いです。今後の展望等があればご教示をお願いします。

地域づくり課長：旧観客席部分をクラブハウスおよびトレーニングルームとして整備した施設でございます。単に運動するだけでなく、新しい交流が生まれる場所にしていきたいと考えております。

菊地委員長：先日グラウンド内に天然芝をみんなで植える作業をしたが、これによりグラウンドの利用機会が増え、利用者やイベント、他地域との交流がさらに増えることを期待しています。

書かない窓口事業（実施令和6年度評価）

菊地委員長：以前は何度も同じ用紙に記入して番号札を待つ手間があったが、窓口カウンターでの手続きが非常にスピーディーになった。マイナンバーカード等をスキャンして自動転記されるなど、利用者目線に立った素晴らしい取り組みであります。

キャッシュレス決済事業（実施令和6年度評価）

菊地委員長：キャッシュレス比率の目標（令和8年度までに全体の15%）について、民間小売や医療機関等ではすでに約半数がキャッシュレス化しています。現金管理の事務負担軽減にも直結するため、利用者が徐々に慣れていけるよう積極的に進めていただきたいと思います。

L I N Eを活用した情報提供・町民サービス向上事業（実施令和6年度評価）

菊地委員長：最近、盛岡市が真似をするほど紫波町の「クマ出没情報」のL I N E発信は活用性が高くなっております。

新田委員：他自治体を含め、発信している情報が本当に住民に届き、受け入れられているかの検証や、他市町村と横断的に勉強する機会はあるのでしょうか。また、自身が区長を務める自治会では未だに全てのやり取りや集金が「紙・現金・電話」で行われており、行政側がD Xを進める一方で住民側の活動が追いついていない状況でございます。住民への啓発・自治会活動へのデジタル導入支援は考えておりますでしょうか。

金子係長：L I N Eでは年1回ユーザーアンケートを実施しており、現在集計中である。現在、紫波町の登録者数は約1万5千人で、大人の2人に1人が登録している計算になり、登録率は周辺自治体（盛岡市35%、滝沢市11%）と比較しても非常に高くなっております。命を守る情報（クマ等）は一斉配信し、この1年でも登録者が1000人以上増えております。

企画総務部長：自治会（行政区）役員の仕事が大変で担い手不足になっている課題については、現在、岩手県立大学の協力を得て、行政区の在り方を見直す事業を進めております。なお、町の回覧板情報は現在ネット上で誰でも事前に閲覧できるよう対応しております。

(2)第3期紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（資料No.2）

【質疑】

基本目標2：女性・若者に選ばれて新しいひとの流れが生まれる

基本施策2－2：魅力ある住環境の整備

富岡副委員長：K P Iが「講習会への参加者数」となっているが、実際に住民が太陽光パネル

やエコキュート、エアコン等の省エネ設備を導入した具体的な件数や中身が見えないのですが、ご説明お願いいたします。

産 業 部 長：今回の地方創生側の目標は「普及啓発活動（カタログ配布や説明会参加など）」そのものに主眼を置いていたため、参加人数をK P Iに設定しました。具体的な設備導入目標等については、別途町が策定している「地球温暖化対策実行計画（区域施策）」に具体的な数値目標を設けて管理しており、内容はホームページでも公開しております。

佐々木委員：脱炭素やSDGsの取り組みとして、まずは啓発活動に来てもらうという一次目的の達成は評価するが、それで終わりにせず、次段階として太陽光等をどう普及させるかという町としての具体的な施策へ繋げていただきたいです。

基本目標1：ローカル経済でしごとが生まれる

基本施策1－1：地域農林業の中核となる経営体の育成と次代を担う新規就農者の確保・育成

八重嶋委員：紫波町では集落営農組織が農業の担い手の柱だが、メンバーの高齢化（70代中心）が進み60代以下へのバトンタッチが難航しています。資料にある「法人化の推進・地域計画のブラッシュアップ」は、こうした世代交代への支援も含まれているのでしょうか。

農政課長：従来の農業協同組合法人等だけでなく、最近では「株式会社」の形態での法人化支援も行っております。全員一律の従来方式では改革が難しかったが、株式会社化して意思決定を明確にすることで、若い世代が改革しやすいトレンドを作りたいと考えております。また、10年後の農地を誰が耕作するかを決める「地域計画」の話し合いにも入っているが、個人の財産や感情の競り合いもあり非常に難航している状況でございます。一気に逆転させる特効薬はないため、一人一人と地道に話し合いを進めてまいります。

基本目標3：子育て支援・教育の充実で若い世代の安心が生まれる

基本施策3－2：子育てを社会全体で応援する環境づくり

細川委員：相談や支援が行われた割合が98.1%と非常に高く、素晴らしい効果が出ています。お願いとして、近年の酷暑や極寒、また安全面（クマ等）から子どもたちが外で遊べる場所が制限されています。長期休み中などに、学校の体育館を柔軟に開放するなど、室内で自由に遊べる場所をみんなで工夫して作っていただけないでしょうか。

こども課長：現在、子育て応援センターの2階で月1回（第2土曜日）に子どもの居場所のため「あそび家」を開催し、1回10人ほどの子どもたちが昔遊びなどを楽しんでおります。今後「こども計画」を策定するにあたり、国からの指針に基づき、子ども自身が休日にどう過ごしたいか、どこが安心できるか等のアンケート調査を行う予定であるため、その結果を参考に遊び場について研究・検討してまいります。

八重嶋委員：隣の矢巾町にある「ふれあいランド」のように、子どもたちだけで自由にボール遊びやバスケができる体育館が紫波町にもあれば、中学生の親としても非常に重宝すると感じます。

(3) 紫波町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進費について（資料No.3）

【質疑】

特になし

(4) 紫波町クラウドファンディング活用支援事業補助金について（資料No.4）

【質疑】

特になし

6 委員長総括

K P I の設定方法についてですが、最終目的・目標に対する中間検証として機能させるため、「何かを取り組んだから数値が発生した（あるいはしなかった）」という、次の業務改善に直接結びつく、因果関係の分かりやすい指標・説明の仕方をしていただきたいです。

D X 関連事業についてですが、D X とは、単にそろばんを電卓に、紙をデータというように「道具を変えること」ではありません。これまでの業務の流れにあった課題を見つけ出し、やり方そのものを変える「業務改善」と「人材育成」がセットになって、初めて本当のD X となります。道具の変更にとどまらず、業務改善と人材育成へさらに発展を期待しております。

引き続き紫波町のまち・ひと・しごと創生事業についてよろしくお願いいたします。

7 その他

8 閉会（企画総務部長）